



JTUC-aomori

No.355 2019年7月10日

れんごろう 青森

発行 日本労働組合総連合会
青森県連合会(連合青森)
発行人 山内裕幸 編集人 堤 史子
青森市本町3丁目3の11
青森県労働福祉会館内
TEL (017)735-0551
FAX (017)735-0553
URL <http://aomori.jtuc-rengo.jp/>
月1回発行 1部10円
(組合員の購読料は会費の中に含む)

自民党に利することがない闘いに!

「連合青森第25回参議院議員選挙勝利総決起集会」



7月21日(日)に投開票が行われる第25回参議院議員選挙を前に連合青森推薦候補者・青森選挙区小田切さとの候補者と比例代表では連合組織内候補者10名の勝利に向け、連合青森は6月28日(金)18時30分から青森市のアピオあおもりにて「連合青森第25回参議院議員選挙勝利総決起集会」を開催し、200名の組合員が結集した。

今次選挙は県内野党が結集をはかり、議席獲得に向け支持拡大を訴えている。連合青森も働く者・生活者が安心して暮らせる社会の実現のためにも、現在の数の力で強引に推し進める一強政治に歯止めをかけようと結束を確認した。

主催者あいさつに立った連合青森内村隆志会長は「政治に諦めしか持たない有権者に対し、人を大切にすることが政治の役割であるということを改めて認識してもらい、それを実現できる政治を取り戻さなくてはならない。残り22日間、私たちがやり切らなくてはいけないことに120%の思いを持ち、自民党に利することがない戦いにしよう」と訴えた。

次に連合相原康伸事務局長は「この東北の地は人口減少、地域、産業の疲弊など多くの課題を抱えている。だからこそ地域の実情を知り困難に寄

り添える小田切候補が必要とされている。7月21日が将来への期待につながる第一歩となる様、全力を尽くさなければならない。10名の比例候補と小田切候補との相乗効果で大いなる前進を遂げたい」と激励した。

また、小田切候補の応援で駆けつけた立憲民主党の杉尾秀哉参議院議員、国民民主党副代表の田名部匡代参議院議員が「安倍政権の不条理と闘う」と激励の意を述べた。

続いて小田切さとの候補者の決意表明に移り、「弁護士活動中、個人の責任に帰するものではない不安定な生活基盤による貧困の相談を多々受けた。当事者には手は差し伸べられるものの、その背景にいる同様な問題で困っている多くの人々に手を差し伸べられないことに限界ともどかしさを感じた」と自身が政治家を目指すきっかけを述べ、「青森県は最低賃金が全国最低クラス。この底上



賃金の底上げ第一と述べる小田切さとの候補者

げを政策の第一に抱え取り組む」と強調した。また「投票率が上がれば安倍政権にストップをかけたいという思いが数字に反映される。選挙に関心を持ってもらい、投票所に足を運んでもらうための活動を強めてもらいたい」と呼び掛けた。

集会後半、比例選挙候補予定者擁立構成組織の決意表明に入り、危機意識を共有し、組織一体となった運動を続けて行くことを訴えた。また「連合の組織力が問われる闘いとなる。全組合員の総

力を結集し推薦候補者全員の必勝を誓う」とする第25回参議院選挙必勝に向けた特別決議が読み上げられ、最後に連合青森内村隆志会長の音頭で必勝ガンバロー三唱を行い、勝利に向け闘い抜くことを誓い合った。

また集会に先立ち、小田切さとる候補者と連合相原事務局長、杉尾参議院議員、田名部参議院議員も加わり「クラシノソコアゲ応援団」街頭行動を行った。

2019平和行動 in 沖縄

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう

連合は6月から9月までを「全国平和運動強化期間」と定め、平和4行動をはじめとする様々な運動を行い、戦争による惨禍が再び起こることが無いよう、恒久の平和を希求するとともに戦没者の霊を慰めるために取り組んでいる。

今年の平和行動の皮きりとして2019平和行動 in 沖縄が6月23日（日）～24日（月）の日程で開催され、全国から連合組合員など1,274名もが参加した。連合青森からは沢辺毅副会長（JR総連）、秋田谷宗孝副事務局長（交通労連）が派遣された。

『連合2019平和行動in沖縄に参加して』

初日の「平和オキナワ集会」では「他国地位協定調査」と題し基調講演が行われた。日米地位協定の現状と他国との比較をし、日本が米国に対し何もできない事が述べられた。

沖縄県で相次ぐ事件や事故について、米兵等には日本の法律が適用されず、米軍の訓練や演習に関しても日本側には規制する権限がない等、問題点が明らかにされた。「日米の安全保障条約(地位協定)」という名のもとに、いかに沖縄県民が日々犠牲を強いられている現実を思い知らされる講演であった。

2日目は、国土面積のわずか0.6%の沖縄県に米軍基地・施設の70%が集中する「米軍基地・施設」をバスで巡る「ピースフィールドワーク」に参加した。

普天間基地は市街地の「ど真ん中」にあり、頻繁に軍用機が離発着しており、ひと度事故が起きれば甚大な被害を被る事となる。そのような場所で生活をしなければならないという冷厳な現実を見せつけられた。

名護市の「辺野古の埋め立ての賛否を問う県民投票」では投票者の72%が反対という結果だった



秋田谷副事務局長と
沢辺副会長

ものの、民意を無視するかのよう「埋め立て工事」は着々と進められていた。サンゴやジュゴンといった絶滅寸前の生物が生息する地域である。この影響で自然環境は破壊され、ひいては生態系の破壊へと連鎖していくことだと思われた。

また「埋め立て」工事予算が2400億円だったものが、軟弱地盤があることがわかり2兆5500億円まで大きく膨らんだという。何のための、誰のための「埋め立て」なのか疑問を感じた。

この2日間、自分自身で沖縄の現地に立ち、目、耳、体で体験することの重要性を感じることができた。戦争を知らない世代が多くを占める時代であるからこそ、このような取り組みを通じ、次代へと語り継いでいかなくてはならないことを強く考えさせられた沖縄平和行動だった。

連合青森副会長 沢辺 毅

女性のための労働相談ホットライン

全国一斉労働相談

近年、女性活躍推進法や改正育児・介護休業法など働く女性に関わる法整備は進んでいるものの、一方ではセクハラ・パワハラ・マタハラなど「差別等」に関する相談が増加傾向にあることを受け、連合は6月3日（月）と4日（火）の2日間、女性を対象にした全国一斉相談ダイヤルを実施した。

連合青森もこのような不安を抱えている労働者が独りで泣き寝入りをするのがないように、問題の解決・支援のため労働相談ダイヤルを実施した。

また労働相談ダイヤルの周知のため、相談日初日11時30分から青森市の「さくら野百貨店前」にて街頭行動を行い、道行く方々に性差別のない職場環境や労働組合の意義・必要性を訴えた。

相談は全国で547件（女性403件）、青森では6

件（女性6件）寄せられ、雇用形態は正社員から2件、パート労働者3件、臨時職員1件となった。相談内容は「安全衛生」2件、「パワハラ」「退職強要」「退職手続」「雇用契約」が各1件であった。

<相談事例>

◆コンビニ勤務。ミスをすると先輩から「済みませんでは済まない」と嫌がらせを言われる。トイレに行きたくても「今忙しいから後にして」と言われ、膀胱炎になった。（パート・女性・60代）

◆介護助手・1年勤務。契約時、介護士資格取得のため準備金30万円を貰った。その後試験代も出してもらったが不合格となり資格取得できなかった。仕事は厳しく退職を申し出たところ「準備金を返済しなければ辞められない」と言われた。返済しないと退職できないのか。（正社員・女性・不明）

連合青森2019春季生活闘争妥結状況

2019年6月20日現在

	対象組合 ・員数	要求提出		加重平均		妥結状況		加重平均	
		組合数	率	金額	率	組合数	率	金額	率
連合青森	189組合 20,859名	110組合	58.20%	9,223円	4.16%	88組合	46.56%	5,599円	2.53%
地場労組	117組合 9,746名	72組合	57.60%	8,356円	4.01%	42組合	41.60%	4,405円	2.10%
		要求金額(単純平均)		要求率(単純平均)		妥結金額(単純平均)		妥結率(単純平均)	
非正規 ※時間額		22組合	34.9円	4.01%		20組合	29.7円	3.30%	

2019年7月行動予定 7月10日現在

- 7月18日(木)17時45分 県労働福祉会館
「第1回食みみ実行委員会」
- 7月22日(月)17時 県労働福祉会館
「第4回報酬審議会」
- 7月24日(水)13時30分 県労働福祉会館
「第4回政策委員会」
- 7月24日(水)15時00分 県労働福祉会館
「第19回執行委員会」
- 7月24日(水)16時30分 県労働福祉会館
「第5回闘争委員会」

- 7月26日(金)15時00分 県労働福祉会館
「第3回非正規共闘連絡会議」
- 7月26日(金)16時30分 県労働福祉会館
「第4回地場労組対策委員会」
- 7月26日(金)18時00分 県労働福祉会館
「青森空襲7.28平和の集い」

2019年8月行動予定

- 8月9日(金)16時30分 さくら野青森店前
「連合の日街頭行動」

労使双方の「ワークルール」に関する知識・認識を高める

「ワークルール検定2019・春(初級)」

連合やNPO法人職場の権利教育ネットワークなど全7団体で構成される一社)日本ワークルール検定協会は、6月9日(日)に青森市の県労働福祉会館にて「ワークルール検定2019・春」を開催し、「初級検定」に58名が受検した。

本検定は近年「ハラスメント」などの労働相談の増加や、「ブラック企業」の社会問題化など、使用者側と労働者双方の「ワークルール」に関する知識の欠如に起因した労働問題が顕著化している。また学校教育でも実践的な教育はされず、社会に出てから困難に巻き込まれるケースも多くなっている。このような労働をめぐる問題を是正・解決するためには労使双方の「ワークルール」に関する知識・認識を高めていく必要があることから、



初級検定に真剣に取り組む受検者の皆さん

「ワークルール」の社会的普及と健全な労働環境の実現を図ることを目的に実施されている。

初級検定は20問中14問正解で合格となり、次のステップ「中級検定」の受検が可能となる。合格発表は7月1日に協会の公式ホームページに掲載された。

毎月5日は『連合の日』

連合では毎月5日を『連合の日』と設定し、組織活動の活性化をはかり運動の輪・信頼の輪を広げべく各種取り組みを行うこととしている。

連合青森も『連合の日』について5日を中心に街頭行動を主として取り組み、連合青森として抱える課題の共有化、各産別・産業にある現状課題を県民に対し、広く訴えていくこととした。

7月の取り組みは、2020年に核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議が開催されることを受け、世



核兵器廃絶に賛同し署名する市民の方々

界中のあらゆる核兵器の廃絶に向け『核兵器廃絶1000万署名』街頭行動を行った。

次なる飛躍に向けて — まもる・つなぐ・創り出す —



連合青森結成30年記念企画

(1989年12月3日結成)



《 絵画・写真 コンクール 》

◆絵画

- テーマ 『私が好きな働く人・私が好きな働く物』
- 部門 ①小学生低学年部門(未就学児~3年生)
②小学生高学年部門(4年生~6年生)

◆写真

- テーマ 『青森に残したい物・人・風景』
- 部門 ①中学・高校生部門
②一般部門

- ◆募集期間 2019年7月~8月30日(金)
- ◆応募対象 連合青森組合員・家族・OB
- ◆入賞発表 11月5日(火)
連合青森ホームページにて
- ◆入賞(各部門10作品)
連合青森大賞:賞状と商品券3万円、
連合青森優秀賞:賞状と商品券2万円、
連合青森賞:賞状と商品券1万円、他
- ◆作品展示・表彰式
2020年1月25日(土)ホテル青森

応募方法・詳細については連合青森のホームページ内「お知らせ」をご覧ください。

◆ホームページ <http://aomori.jituc-rengo.jp/>

◆お問い合わせ 連合青森 TEL 017-735-0551

